

「これが欲しかった」と言ってもらえる “しごと服”を作っていきたい。

山口真依

商品開発グループ 副グループ長 / 商品企画チーム チーフデザイナー



大学では、美術を専攻していたという山口さんは、「学んだことが生かせる仕事を」と他業界も検討しながら、ジョアに入社を決め、入社時からデザインを担当。「今から考えると作画スキルは身に付けていたものの、繊維の知識がない中でのデザインの仕事は大変で、当時の自分に喝を入れたのですが(笑)、大学での人間関係や、人前で自分が描いた作品をプレゼンテーションしていた経験などは、仕事にも生かせていると感じていました。」と入社当時を振り返る山口さん。入社後、仕事のやり方に悩んだ時期もあったそうですが、上司、先輩をはじめ仕事を通じて出会った人たちに助けられたことが、今の自分に繋がっていると話します。「大学時代でいうと絵を描くのは一人での作業ですが、人と関わり話し合いを重ねながら一緒に考えてものづくりをしている今の方がずっと面白いですね。」

入社14年目となる現在は、会社の新コンセプトを表現した新コレクションや、着心地・快適性に特化したストレスフリーな商品企画提案、新たに始まったクリニック向け商品の開発、抗ウイルス加工素材を使った商品の提案など多岐にわたります。さらに、それぞれの企画について資材選定や商品ロット等の生産までを含めた原価削減企画など幅広く業務をこなしているというから驚きます。

今後について「政府が強化している『女性活躍推進法』などにより、働く女性の数自体は増えていて、そこに注目すると伸びしろはまだまだあるはず。新たなターゲットに向けた商品開発を行っていき、『こんな制服が欲しかった』と言ってもらえるような商品を作っていきたいです。」と話す山口さんとジョアの挑戦は続きます。



もっと生の声

Q & A

- やりがいを感じるの、どんな時ですか？
当社は販売代理店様を通していただくため、直接エンドユーザー様の声を聞く機会が普段少ない分、SNSに「制服が変わってめっちゃテンションが上がります!」などのお客様の声や商品の着用写真がアップされていたりすると嬉しくなりますね。そういったお客様の直接の反応だったり、大手企業などで採用されている制服がリポートされていることで感じる、en joieのファンの増加が一番のやりがいです。
- 今後実現したいことはありますか？
エンドユーザー様から指名買われるブランドとしての成長です。現在は、販売代理店様が他社のカタログも含めて提案してエンドユーザー様を選ぶという販売方法が主流ですが、en joieのブランド力を高めていって、将来、エンドユーザー様から指名されるように認知度を上げていきたいです。
- 将来繊維業界に従事する人へのメッセージをください。
自分自身の経験から言えることですが、入社までに経験がなくても、意欲や自ら学ぶ気持ちがあれば、知識やスキルは後からでも身に付けることができます。最初から無理だと、自分の役割やできる範囲を決めつけずにどんどんチャレンジしてもらいたいです。

